

## 現地発着ツアーアンケート

お名前：KAZU

ご職業：(大学教員)

年齢：50～59歳

現地発着ツアー参加歴：10回目

Q1：今回あなたが参加した現地発着ツアー

会社名：INTREPID

ツアー名：Eastern Europe Express

開始日：2015年8月25日(火)～9月1日(火) 8日間

発着地名：ブカレスト発 イスタンブール着

Q2：参加者 4ヶ国から11名 (男性4名・女性7名)

出身国名&年齢

出身国は、アメリカ、オーストラリア、イギリス、日本。年代は20代から60代まで幅広い。

Q3：成田／関西など国際空港でのチェックイン～出国～現地入国審査～税関等

＜行き＞成田からトルコ航空利用。イスタンブール空港でブカレスト行きトルコ航空に乗り換え。ルーマニア入国の際には、入国カードの記入提出が不要で驚いた。ブカレスト空港からホテルまではタクシー利用。タクシーは空港内にタクシー予約チケットマシンがあり、そこで好きなタクシー会社を予約、レシートを受け取る。ルーマニアのタクシーは事前情報ではあまりよい評判がなかったが、とても安心でリーズナブル。約20分で市内の集合指定トリアノンホテルに着。料金は8ユーロ。チップを入れて10ユーロで済んだ。



＜帰り＞イスタンブールから成田直行12時間のトルコ航空利用。とてもスムーズ、

Q4：現地空港から、指定ホテルまでのアクセス（交通手段、所要時間、料金）等

おおよそ上記にまとめたので参考にしてほしい。

帰りはイスタンブールを真夜中の1:15発の便。ホテルを早めに19時に発。フロント係の薦めで、ホテルのプライベートビークルを利用した。料金はタクシーよりはかなり高めで90リラ。大渋滞に巻き込まれ、通常25分程度で空港に行けるところを1時間半かかった。それでも12人乗りビークルに、妻と二人で乗ったので、車内はゆっくり。イスタンブールの夜景を見ながら、快適な時間でもあった。イスタンブールのタクシー運転手の運転は総じて荒いが、ビークルドライバーは丁寧な運転で安心。

Q5：ツアー前後の指定ホテルについて（施設の印象など）

ツアー終了後、同じゴールデンホーンホテルを予約してもらった。海にもアヤソフィアにも徒歩10分の距離にあり、観光にはとても便利。

Q 6 : お勧めスポット (レストラン) 等

イスタンブール、エミノニュ地区のトラム駅前に甘味カフェがある。この2階席から街並みや海を眺めるのはお勧め。もちろん、ケーキ等もとても美味しい。ケーキ、チャイ等で20リラ程度で済む。



Q 7 : ツアー中の宿泊場所について / 設備・場所・環境など気のついたこと

どこのホテルもトイレ、バス等、とてもきれいで使いやすい。丸い差し込みタイプのプラグ、変圧器を持参すれば、充電も問題なし。ホテル以上に良かったのは、ブルガリアのリラ近郊の村、及びバンスコで宿泊したゲストハウス。オーナーが本当によい方で別れが惜しかった。



Q 8 : ツアー中の食事について

ツアー中のホテル、ゲストハウスの朝食は全てツアー料金に含まれている。どこでもパンがとても美味しい！トマト、キュウリ、卵、ハム、ヨーグルト等も美味しくてついつい食べ過ぎてしまう。昼食や夕食は皆で食べに行ったり、フリーで各自、

好きな所に食べに行ったり…。私の1番のお気に入りにはチキンスープ！アイラン(ヨーグルトジュース)、地ビールも Good！



Q 9：フリータイムについて

ブカレスト、ソフィア、リラ、バンスコ、プロヴィディフ、イスタンブール等、各地でリーダーや現地ガイドによるオリエンテーションウォーク後、フリーに動ける時間がたっぷりあり。

Q 10：どんなオプション・アクティビティに参加しましたか？

ブカレストの市内観光バス(約1時間半。一人25レイ。1レイ=約30円)、イスタンブールのボスボラス海峡ロングクルーズ(10:30～16:30。一人25リラ。1リラ=約42円)の二つは最高だった。また、故チャウシェスク大統領の宮殿であった「国民の館」(一人25レイ)、世界遺産リラの僧院内美術館(一人8レバ。1レバ=約70円)に展示されている「ラファエルの十字架」もお薦め。





Q 1 1 : ツアーリーダーの名前 : (Mr. マルコ)

優しい 30 代のオランダ人リーダー。英語が苦手な私たちにも、最後に日程等再び説明をしてくれたり、気配りが嬉しい。メンバーからも「最高のリーダー！」と声がかかっていた。

Q 1 2 : ツアー中に出費

リーダーへのお礼 (一人 30 ユーロ。1 ユーロ=約 142 円)、ドライバーへのお礼 (一人 30 レバ。1 レバ=約 70 円)、オプションアクティビティ等を含め、日本円にして一人約 4 万円。ただし、私たちの場合、食事、土産等にそれほどお金をかけていない。

Q 1 3 : これから参加する方へのアドバイス (持ち物等)

・東欧への旅は 3 カ国を訪れ、各国の通貨が異なるため、日本でユーロにして持参するとよい。ルーマニアに到着後、レートを考え、空港内でレイへの両替を行わず、ホテルまでタクシー利用。タクシーへの支払いは、乗る前に「ユーロでも OK か？」とドライバーに確認し、乗車 OK だった。我々は、「国民の館」周辺の銀行にて両替した。帰国時は残ったトルコリラを市内でユーロに換え、帰国後、空港内で円に両替した。

・この時期、朝夕はととても過ごしやすい (むしろ寒く感じることもあり、長袖の羽織るものがあるとよい) が、日中はいずれの国も照りつけるような暑さで、日向を歩くのが大変なほど。帽子、サングラス、日焼け止めは必需品。

・レストラン等でおしぼりは出ないため、除菌ウェットシートを持参するとよい。  
・ホテルで小物を洗濯する際、洗剤を持参するとよい。ベランダ等に干す際に、ひも、洗濯ばさみもあるとよい。

・充電には、変換プラグ、電圧変換器が必要。

・VISA 等、海外使用可能なクレジットカードがあれば安心。

・喉が弱い方は、飛行機内でマスク等を使用するとよい。

・青汁、梅干、キャンディー等、持って行ってよかった。

・帽子、日焼け止め、サングラスは必需品。

・石畳の道など歩くことが多く、やや底の厚い靴も持参するとよい。

・ホテルにシャンプーがないところもありますので持参すると安心。

・多国籍ツアーはメンバーとともにかなり歩くので、日頃から体力づくりを。

・ガイドブック「地球の歩き方；ルーマニア・ブルガリア」。

Q14:Active通信(感動のエピソード等)

<その1;「ふるさと」熱唱!?～リラ近郊の街:ゴロノ・ドラグリシュテ>

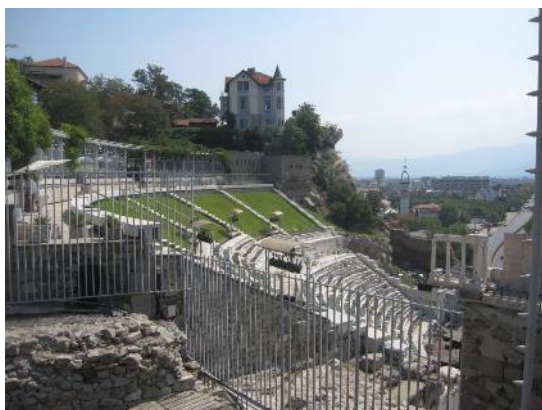
ゲストハウスでの夜、地元の「ババリナ&ババレナ」の二人と過ごした時間が今回の旅の1番のエピソード。民族衣装を着て、皆で歌い、踊った時間は一生の思い出。「日本の歌を歌って!」というリクエストに応え、なんとトップバッターで、妻と「ふるさと」を熱唱!?

メンバーから「Beautiful melody!」「You are great singer!」などと声をかけられ、二人で大照れ!



<その2;～新旧が融合する街;プロヴィディフ>

ローマ時代の遺跡が残る旧市街ときれいに整備された新市街が見事に融合されたという印象の街ブルガリア・プロヴィディフ。「スリが多い、治安が悪い」等の事前に得ていた情報が、「本当にそうなのか?」と疑わしく感じられたほど、落ち着きのある静かな居心地のよい街だった。1日かけて新旧の街並みを散策するのもきっと素敵だろう。路上パフォーマーもよく似合う街。





### <その3；国境越え；ブルガリアのルセ、トルコのエディルネ>

ルーマニアからブルガリアへ、ブルガリアからトルコへの二つの国境越えの貴重な体験。ブルガリアのルセに入るときには、プライベートビークル内に係員が来て、パスポートの名前を読み上げての本人確認のみ。一方、ブルガリアからトルコのエディルネに入るときには、いったんバスから降りてパスポートを提示、その上、荷物もすべて再びスキャンをかけるという徹底ぶり。そういえば、トルコ入国に際し、他の国はビザが必要であるのに、日本はビザの必要なし。他のメンバーから羨ましがられるほど日本は良い国であることを実感！



### <その4；世界遺産の中のパン屋さん：リラの僧院>

世界遺産リラの僧院内に、とってもおいしいパン屋さんがある。油で揚げたパンに粉砂糖をふりかけて食べるとそれはもう絶品！ 自然も建物も素晴らしい上に、パンまでも…。これは是非ともお薦め！





<その5；あらためて、多国籍ツアー万歳！>

記念すべき10回目の多国籍ツアー参加。毎回、「〇〇へ行きたい！」という思いよりも、自分自身の休暇と各地のツアー日程を照らし合わせ、探検隊スタッフの方の情報提供も受けながら行き先を決定。今回の東欧の旅も、「偶然、たまたま」(ハプンスタンス)によるものだった。そのような決め方をしても、毎回、多国籍ツアーには期待を裏切られることが全くない。今回もこれまで同様、大満足の旅。あらためて、多国籍ツアーに万歳！

